

2008年4月5日（土）～6日（日）

## 鹿島槍ヶ岳東尾根

### ■メンバー

L 岡田和彦、中島節子、島津敦子、小玉健彦(記)

### ■タイム

4月5日 7:00 駐車場出発 - 10:00 一の沢の頭 -  
13:00 二ノ沢の頭 - 14:20 岩峰手前(泊)

4月6日 5:20 出発 - 8:20 第二の岩峰 - 11:00 鹿島  
槍北峰 - 18:30 位置の沢の頭 - 20:40 駐車場

初めて挑んだ雪稜でしたがが付いていくので精一杯。先頭でラッセルなんて余裕は全然ナシ。まだまだ力不足です。岡田さん、中島さん、島津さんの力強いサポートと2日間ずっと晴れだったおかげでなんとか完遂できましたが、あらためて雪山の厳しさを感じました。

そんな中ですが鹿島槍北峰の南斜面に見入ってしまいました。『滑ったら気持ちよさそう』と。日本中の山の奥には、自分の足で登らないと見つけられない斜面はきっとたくさんあるのでしょう。いつかは板を担いで雪稜を登って滑降したい。そんな新たな目標を見つけることができた山行でもありました。

金曜夜、時速140Kmで飛ばしても回転数が2000そこそこのモンスターカーで中央道をぶっ飛ばして現地入り。野外ステージで快適に睡眠をとる。翌朝5時に起きて朝食をとった後、大谷原に移動。すでに数台の車が停まっている。駐車スペースを確保すべく道路脇の除雪を始める。幅6メートル、奥行き1メートル、高さ70cmの除雪はよいウォーミングアップとなる。

林道をしばらく歩いて右側の尾根に取り付く。トレースはしっかりある。1時間ほど歩くと先行パーティーが見えてきた。先行していたのは日帰りのツアー客と、2人組のパーティー。しかしトレースはさらに先に続いている。先行しているのは単独の登山者のようだ。

標高を上げるにつれ、左側には爺ヶ岳が姿を現す。名前に似合わず、急峻でなかなかかっこいい山だ。

単独の登山者と先頭を交代しながら森林限界を抜ける。一ノ沢の頭の到着が10時。さすがに風は強い。ここでアイゼンを装着する。先に見えるのは急斜面とナイフリッジ。初めて見る光景。今回雪稜用のバイルを買い揃えられなかった関係で、持参したのは沢用

バイル。スノーバーよりも短い。一方ピッケルは70cmと長め。ちぐはぐな感じでトラバースはぎこちない。ナイフリッジではロープを使ってリードしてみる。スノーバーで中間支点をとる。スタンディングアックスビレーでセカンドを確保する。いきなりの実践だが、特に危険を感じる場所ではないので落ち着いて対処できた。



爺ヶ岳

二ノ沢の頭には午後1時に到着。そこから先の急斜面はトラバースのあとに登りが続く。中島さんと島津さんが先行する。どんどん差が開く。登りなれていないせいだろう。体力の消耗が激しい。どれくらい蹴り込めば安定するのかわからない。絶対大丈夫と思えるステップをつくるのに毎度2,3回は蹴り込んだ。

午後2時30分、第一の岩峰手前のテン場に到着。整地してテントを張る。単独の登山者はツェルトを張ってビールを嗜んでいる。

よく晴れた朝、午前5時20分。15時間20分に及ぶ行動が開始した。北峰をピストンすべく、荷物をテン場にデポ。第一の岩峰に取り付く。単独の登山者には先に出発してもらおう。リードの岡田さんをスタンディングアックスで確保。中島さん島津さんがユマーリングで登り、登りきったところから先行してもらおう。2ピッチ目はリードする。斜面は急だがトレースがあるので幾分楽に登れる。そこから標高を上げながらトラバース。第二の岩峰を目指す。シュルトの処理が難しい。それでも先行のトレースがあるので幾分楽なのだろう。

午前8時20分、中島さんリードで岩峰に登る。2番手に岡田さん。3番手、ロープマンで取り付く。アイゼンで岩に登るのはもちろん初めて。ピッケルが邪魔になる。どうにかチョックストーンを越えたのはいいが、ロープマンが引っかかって上がらず、もがくこと5分の後なんとか上りきる。島津さんがフォローで中島さんがビレーをしている間に、先行させてもらう。



岩峰を過ぎるとあとは稜線を登るだけ。ようやく北峰が見えてきた。もう少し。なのになかなかたどり着かない。歩みが遅い。疲れた。中島さんと島津さんはすぐに追いついた。

午前11時北峰到着。疲れて景色を楽しむ余裕はない。写真のポーズを取るのが精一杯。



一通り写真を撮って頂上をあとにする。下山は登ったルートを降りることになる。昨日・今日登ったルートを思い返すと、気が遠くなる。この段階で明るいうちに下山するのは無理だという。

日射を浴びた雪は数時間前に登った時の雪とはまるで違う。ちょっとの刺激で崩れた雪は、文字通り雪だるま式に大きくなって斜面を転がり落ちる。2

回の懸垂下降と2回のロープを使ったクライムダウンでテン場に戻る。第二の岩峰では懸垂のロープが下ろせなくなるというアクシデント発生。このときは偶然登っていた単独の登山者にロープを下ろしてもらった。この登山者は途中でビバークすることのこと。

テン場に戻ったのは午後4時を廻っていた。そこからルンゼを下降する案もあった。雪の状態さえよければ、尾根を歩いて下るより、ルンゼを下ったほうが早いという判断だ。しかし、地図を見る限り降りれる状況ではない。結局登ったルートをそのまま降りることにした。あとは時間との勝負。暗くなる前にどこまでいけるか。せめて樹林帯までは行けることを願う。

登るときには苦勞した斜面だったが、下りはそれほど苦勞しなかった。クライムダウンで降りるわけだが、アイゼンの利かせかたが、今更ながらわかってきた。さらに、シリセードを交えて下降する。

午後6時30分。一の沢の頭でヘッドランプを準備して樹林帯に入った。樹林帯を駆けるように降りる。足がもつれてしりもちをつく回数が増える。午後8時を廻り、林道に出たときは全員に安堵の色が見える。車に戻ったのが午後8時40分。天気はよくもってくれた。

コンビニで食料を調達して帰途に着く。帰宅は絶望視していたが、モンスターカーは午前0時を廻った頃に新宿に到着。終電に間に合った。